

シドニーでの12日間

名古屋市立菊里高等学校 1年 岡百合乃

1. 私の研修の目標

私の研修の目標は大まかに3つありました。1つは、オーストラリアの授業が日本とどのように違うのかを知ること、2つ目はアメリカの英語とオーストラリアの英語の違い(アクセント以外のもの)を見つけること、そして3つ目は、日本人の宗教への価値観、接し方をオーストラリアの方々に正しく伝えられるよう試みるという事です。

2. 事前の準備

派遣の事前研修では、名古屋について英語でプレゼンテーションをしたり、現地の学校で行う日本の文化紹介の案を練ったりして、十分な名古屋の知識を蓄えました。一方、日本の宗教について正しく説明できるように、インターネットを使って日本の宗教への価値観について調べたり、自分で考えたりしてどう説明するのかを固めました。

3. シドニーでの体験

12日間の研修では、ブルーマウンテンズグラマースクール(BGMS)やシドニー市内の学校の体験入学、ホームステイ、シドニーの視察やオーストラリアの様々な自然を体験することができました。

その中でも特に印象的だったのは、BMGSの生徒たちによる「オーギーのしゃべり方」についての授業と、ウィノナ高校での1日です。

BMGSの生徒たちの授業では、オーストラリア特融のスラングを学ぶことができました。最初にスラングをたくさん使った文章を読まれたとき、聞き取れきれなくて何を言っているのかわかりませんでした。しかし、丁寧に説明してくれたので最終的には言っていることが理解できるようになって嬉しかったです。

ウィノナ高校では、最新の技術を最大限に取り入れていました。生徒ほぼ全員がラップトップを持ち歩いていたところや、全ての教室に大きな多機能スクリーンがあることには驚きました。この多機能

スクリーンは、タッチスクリーンで操作をしたり、生徒のラップトップとリンクできたりしたので、授業がより効率的に進められていました。このような豊富なツールを使えるので、プロジェクトや発表で適切な意思疎通をすることができるのだと思います。ウィノナは最新技術の取り入れだけでなく、授業の仕方も違いました。授業をただ聞いているだけでなく、実践をして体験することに重点を置いて、先生の一人が「20分ぐらい話せばなしになるけどごめんね」と逆に謝っていたことは本当に衝撃的でした。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

日本の宗教についてホームステイ先で聞かれたときには、一般に特定の宗教を持たない場合「無宗教」の一言で括られがちな日本人の宗教観を正しく理解してもらえたと思います。はじめは少し混乱していましたが、「なるほどね」と納得してもらえてホッとしました。

日本とオーストラリアの授業の違いは、はっきりと見つけることができました。

<課題>

教育面に興味があったのにも関わらず、写真を撮ってもいいか聞く勇気がなかなか出ず、少ししか写真を撮ることができませんでした。さらに、思ったよりも人に話しかけるのが難しく、数人にしか話しかけることしかできませんでした。

交流するという事は、言語だけではなく、何よりも自分の心持ちが大切なのだ痛感しました。

シドニー派遣を機に、勇気を出すことを躊躇わないように自分を押ししていきたいと思います。



ウィノナ高校の授業前の風景

かけがえのない10日間

名古屋市立菊里高等学校 2年 加藤杏

1. 私の研修の目標

この研修における私の目標は、オーストラリアの文化を学び、日本との生活の違いについて知ることでした。オーストラリアは多民族国家であり、公用語は英語です。そんな国で色々な「初めて」を見て、感じて、成長し、将来に活かしていこうと考え、どんな新しい発見があるのかわくわくしていました。また、積極的に自分からコミュニケーションを取り、意思の弱くなりがちな自分を変えたいと思いました。

2. 事前の準備

名古屋市立高校生の代表としての責任を果たせるように、日本や名古屋の魅力、文化を調べ、伝える練習をしました。また、オーストラリアの英語を少しでも多く聞き取れるように、オーストラリア英語のラジオを聴きました。

3. シドニーでの体験

この研修で、ウィノナ高校とブルーマウンテンズグラマースクール (BMGS) の二つの学校を訪問しました。その両方でとても印象的だったのは、生徒それぞれが授業に興味を持ち、積極的に参加していたところです。先生の説明を聞きながら、少しでも気になることがあったらすぐに質問をし、話し合いの場面では一人一人が自分の考えを表現していました。コンピュータやプロジェクタを使った授業が多く行われていることにも驚きました。

BMGSでのホームステイでは、日本とオーストラリアの文化の違いを感じました。家族で過ごす時間を大切にしており、落ち着いた空気が流れているように感じました。オーストラリアでは、残業をするとても高い給料をもらえたり、有給休暇を消費しなければならなかったり、という法律によって豊かな働き方ができるそうです。とても素敵なことだと思いました。日本文化を紹介するために用意した用

意したお土産や遊びも、とても喜んでくれ、日本に興味を持ってもらえたということに嬉しくなりました。

市役所やJETROの訪問では、オーストラリアの歴史や経済について多くのことを学ぶことができ、これからも関心を持っていきたいと思いました。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

学校でも、ホームステイでも、それ以外のところでも、たくさんの人と関わり、人々に根付く文化の違いを感じることができました。また、英語を使ってコミュニケーションを取っていく中で、日本で習ったことを生かすこともでき、自信につながりました。そして、オーストラリアの人たちがしっかりとした意見を持っているのは幼い頃からの教育があってこそなのだと分かり、日頃から努力していこうと思いました。

<課題>

私はこの10日間で、挑戦することの大切さを学びました。伝わらなかったらどうしよう、と不安になって、簡単な方に逃げてしまったり、聞きたかった質問も最後の最後まで聞けなかったりしました。失敗を恐れず授業の中でたくさん発言し、質問するオーストラリアの生徒たちを見て、私もそんなふうになりたいと思いました。

これからは、早く自分の殻を破って、思いを伝えられるように頑張りたいです。



シドニー見聞録

名古屋市立菊里高等学校 2年 足立萌ノ香

1. 私の研修の目標

私には将来外交官になりたいという夢があります。そのための経験として、旅行ではなく名古屋市のアンバサダーとしてのこの派遣に参加することで語学力の向上、多国籍国家であるオーストラリアの文化を学ぶことが目標でした。

2. 事前の準備

事前研修でのパワーポイントを使ったプレゼンやBlue Mountains Grammar School (BMGS)のディナーパーティーと市役所で披露するソーラン節、日本文化紹介の剣道の形も練習しました。

また、ホストファミリーに自分のこと、日本での生活を知ってもらうために家族や学校生活の写真をもとに簡単な英語の説明を加えたアルバムを作成しました。

3. シドニーでの体験

私が特に印象に残っているのは主に3つです。

1つ目は大自然に触れることです。空と海の境界線が分からないほどのボンダイビーチの水平線や、日本では見られない壮大なブルーマウンテンズ、光が少なく、空気が澄んでいるからこそ見ることができる満点の星空など自然の景色にたくさんの感動し、改めて世界の広さと美しさを実感することができました。

2つ目は体験入学です。Wenona 高校と BMGS、2つの学校を訪問することで女子校と共学、立地条件による違いなどたくさんのことを比較できるのが楽しかったです。私が一番驚いた共通点は授業中に生徒のみなさんがまるで先生と対話をするように授業を受けているという点と生徒が1人1台ノートパソコンを使って勉強している点でした。日本ではまず見られない光景だけに興味深かったです。

3つ目はホームステイです。今回の派遣で一番の思い出といっても過言ではありません。私は人に気を遣いすぎてしまう癖があり、きつものすごく疲れてしまうだろうと緊張でいっぱいでした。しかし、

優しくて朗らかなホストファミリーはまるで本当の家族のように接してくださり、当初の心配は全くの杞憂に終わりました。最後のお別れの時には涙が止まらないほど悲しかったですが、それと同時にとても充実した5日間だったなと実感することができました。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

私の発見は先入観についてです。私は歴史が大好きで今回の派遣でも歴史的な観点から現地の方の価値観を見つめることを1つの目標としていました。私なりに史実を踏まえて考えた海外の人々のイメージは「戦争に対して積極的」ということでした。しかし、この予想は良い意味で大きく裏切られました。私がホストファザーと戦争について話したとき、彼は「今の日本の外交関係が心配だ。戦争に発展しなければ良いのだが…」と、とても心配してくださったのです。この言葉を聞き、先入観とはこわいものだと感じると同時に、逆に日本こそ好戦的な国民と認識されていてもおかしくないのではないかと考えるようになりました。

<課題>

私が感じた課題は理解したふりをしてしまったことです。会話の途中で相手の英語が聞きとれなかったとき、分かったふりをして流してしまうことが何度かあり、勇気を出して聞き返すことも時には必要なのだと感じました。

この10日間の経験を思い出に留まらせることなく、これからの人生、ないしは社会に貢献する原動力としていこうと思います。



ホストファミリーと一緒に

今派遣の経験を通して

名古屋市立菊里高等学校 1年 山崎悠雅

1. 私の研修の目標

私は将来多くの人々の願いを叶えられるような科学者になりたいと思っています。今回はその糧となるだろうと考え、プログラムに参加しようと決心しました。目標としては、異なる文化と触れ、視野を広めること、また、自らの英語の能力、その中でも、会話能力を高めることを自分の中で掲げました。

2. 事前の準備

オーストラリアへ発つ前の準備として、まず自分の身の回りのことを理解しようと思い、自分が生まれ育った町である有松の自慢である有松・鳴海絞りや旧東海道の街並みについて調べました。また、現地で会った方に名古屋、ひいては日本の文化を知っていただきたいという思いから、名古屋の都市部の街並みや、祭りの様子をカメラに収めたり、自分の幼少からの、一升餅、七五三などの数々のイベントが映った写真をまとめたアルバムを作ったりしました。

3. シドニーでの体験

この度の研修では、シドニー市内の様々な建造物や景色を、歴史やその地まつわる裏話などの解説をしていただきながらの視察や、ブルーマウンテンズでのホームステイ、シドニー大学の訪問など通常行えないことを多く体験させていただきました。

そのような様々な体験の内、最も目標の達成に近づけたと感じたのはブルーマウンテンズでのホームステイです。

文化交流の面では、例を挙げるとキリのないほどの日本との相違、自分の常識との差異があり、大変刺激になりました。その中でも特に自分たちの身近なところで衝撃を受けた点を挙げるとするならば、風呂事情と食事になります。風呂に関しては、事前研修でオーストラリアは水不足で湯船に浸かることはほとんどないということは聞いていたのですが、実際ホームステイ先を訪れると、私が泊めていただいた家では家族全員が朝シャワーを浴びてい

て、夜に浴びている人はいませんでした。食事の点では、夕食でも一食が一皿に収められていて、主食とメインディッシュの区別がない形になっていました。

私にとって、夜に体を洗うこと、主食と主菜の役割が違うことはどちらも当たり前で疑問を持つ余地のないことだったので改めて自分自身の視界の狭さに気付かされました。

言語、会話能力の面では、初めて出会った異国の方との母国語でない言語での会話、また、英語、日本語の双方向の指南が大きく影響していると思います。特に、日本語を教えるという経験は日本に居てはできないことで、自国の言語を他国の言語で教えるというのはとても難しいことでしたが、その分大きく自分の糧になったと感じています。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

この派遣を通して、私は自身の常識の範囲を大きく押し広げることができたと考えています。自分の常識の外にあったものを知ることで、元々常識の内にあつたものにも新たな視点で目を向けることができるようになり、新鮮な知識を手に入れられるようになりました。また、オーストラリアと日本の文化の差異を知ることによって、日本の文化の改めることのできる点にも気が付くことができました。

<課題>

今まで自分の常識の外にあつたものを知ることで自分の視野の狭さに改めて気付かされました。気付いただけで未だに自分の視野が狭いことには変わりはないので、これからはそれぞれの物事に複数の側面があるのだということを意識して改めて普段の生活を見直してみたいと感じました。



ホームステイ先のリビングダイニング